

カルメル

霊性センターニュース



2023年3月

395号

2023年3月号 【教会からの巻頭のことば】

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ 12章 21節)

聖ヨハネ・パウロ二世使徒的書簡『新千年期の初めに』
第三章『キリストからの再出発』 より

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ 28・20)。愛する兄弟姉妹の皆さん、このことばを、教会は二千年にわたって確信してきました。そして今再び、大聖年を通してわたしたちの心にこの確信がよみがえってきます。この確かさをわたしたちの歩みの力とすることによって、そこから、キリスト者として生きるために新たな飛躍の力をくみ取らなければなりません。わたしたちの間に現存される復活のキリストを意識しながら、かつてエルサレムで、聖霊降臨の説教のすぐ後でペトロにされた質問を、きょう、わたしたち自身にも投げ掛けましょう。「わたしたちはどうしたらよいのですか」(使徒言行録 2・37) と。

わたしたちは、いろいろな問題を軽く見ることなく、信頼に満ちた楽観主義をもって自分自身に問い掛けます。今の時代の大きな挑戦を前にして、即効的な解決法があり得るといふ単純な展望に惑わされてはなりません。そうです、解決法がわたしたちを救うのではありません。救いは、ある人物、そして、わたしたちに約束された確かさにあるのです。「あなた方と共にいる」(マタイ 28・20)。

ですから、いまさら新しいプログラムを作ろうというのではありません。プログラムは既にあります。それは、常に福音と生きた伝承から受け継いだもので、最終的にはキリストに集約されるものです。キリストにおいて三位一体を生きるため、また、キリストと共に天のエルサレムで完成を見るまで歴史を変容させるために、彼は、わたしたちが知り、愛し、倣わなければならない模範です。



目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
心の泉	3
通信深読お申込みのご案内	24
カルメル会の企画案内	25
東京	26
京都	30
諸所の企画案内	33
郵送お申込みのご案内	38
あとがき	39

心の泉



宇治カルメル会修道院



第三卷

第五十四章 肉と恵みとの相反する働き

1 主

《子よ、あなたの肉と私の恵みの働きに注意しなさい。この二つは相反しているが、ほとんど識別できない。霊的な人が内的な光に導かれている時にのみ、その二つを区別できるであろう。すべての人は善を好み、その言葉とおこないとに、いくらか善があるとおのおのが考えている。だからその善に、多くの人はだまされるのである。

肉は狡猾で、人を引きつけ、おとしいれ、だます。そしてその唯一の目的は、つねに自分である。ところが神の恵みは単純におこない、悪をことごとく避け、罨をかけない。その最高の目的として、ただ神への愛のためにおこない、そこに休息を見つける。

2 肉が欲すること

肉は人から無視されること、抑えられること、服従させられることを好まず、また、進んで他人に服従し、その下につくことを望まない。ところが神の恵みは、自分を抑えようと努め、邪欲に逆らい、服従することを望み、負けることを喜び、自由にふるまうのを避け、命令されることを好み、ただひとりの人の上にさえ立とうとせず、つねに神のもとにとどまり、生き、望み、神への愛のために、誰に対しても謙虚にへりくだろうとする。

肉は自分の利益のために働き、他人からどんな利益を受けるかを重視する。ところが、神の恵みは、自分だけの利益や楽しみを求めず、むしろ他人の利益を求める。肉は、名誉と尊敬とを喜ぶが、神の恵みは、名誉と尊敬とを、ただ忠実に神に帰する。

3 恵みはわずかなもので満足する。

肉は、はずかしめと軽蔑とを恐れる。しかし神の恵みは、「イエスのみ名のためにははずかしめられること」(使徒現行録5・41)を喜びとする。

肉は、珍しいものや美しいものを好み、平凡で粗末なものを嫌う。ところが神の恵みは、ひかえめで質素なものを喜び、安物も古着もいとわない。

肉は、地上の富を渴望し、この世の利益を喜び、損害を嘆き、ひと^{こと}言の侮辱さえ気にする。ところが神の恵みは、永遠のものに心を置き、地上のものに執着せず、物質的な損害に動じることなく、無礼な言葉にも憤らない。なぜなら、自分の宝と喜びとを、何一つ失われることのない天に置いているかれである。

「今こそ、心から私に立ち返れ、衣を裂くのではなく、お前たちの心を引き裂け・・・」
」（ヨエル2.12-13）と典礼は私たちに呼びかけて四旬節は始まりました。

トルコ・シリアの地震災害、ウクライナへの軍事侵攻、アフリカの食糧不足・・・
遠くに、身近にさまざまな出来事が絶えることない毎日・・・

教皇フランシスコは言われます：

「国境を越えて広がる災厄を前にして、壁を作ることはできません。
わたしたちは皆、同じ船に乗っているのです。
すべての人は兄弟姉妹なのです。」

でも、私にいったい何ができるでしょう・・・

「限界を知るのは良いことです。むしろ、知らねばなりません。
しかし、それは、絶望するためではなく、神におさげするためです。
神のみ手の中で、絶望が希望に変えられるのです。」 ～教皇フランシスコ～



「たとい何ひとつ
主におさげすることができないように感じられるときにも、
何も無いというそのことをおさげしましょう。」

「わたしは一瞬一瞬しか苦しみません。
過ぎ去ったことや、
まだやって来ないことについて考えるから、
落胆したり、絶望したりするのです。」 ～テレーズ～

「祈るために聖人になるまで待つのでなく、
神に近づくのにはふさわしいものになるまで待つことなく、
神の助けを呼び求めましょう。」

～福者マリ=ユジェヌ神父～

生誕150周年を機にユネスコから、世界の平和・文化・教育・に貢献している女性と認定された「小さなテレーズ」、3月27日命日を迎える福者マリ=ユジェヌ神父、ご高齢にもかかわらず国境・宗派・さまざまな困難を超えて神に希望する教皇フランシスコに励まされて、残る四旬節の日々の歩み続けてまいりましょう。



ルルドで祈る
マリ=ユジェヌ神父

伊従 信子 (いより のぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

創造主への賛美（62）

くのり
九里 彰

「創造主への賛美」は、「まことの謙遜」がなければ単なるパフォーマンスとなり、神を賛美しているようでありながら実は自分自身を賛美しているということになりかねない。フランシスコ教皇は、「イエスは『見せかけの信心深さ』を望んでおられません。心からの信仰を望んでおられるのです」と言っておられる。とはいえ、心からの信仰に入るには、前回指摘したように、「心を入れ替えて子供ようになること」、「新生」が求められているのである。

このことをはっきりと悟り、明確に示してくれたのは、今年生誕 150 周年（1873 年 1 月 2 日）を迎えたりジューの聖テレジアではないだろうか（因みに列福は今年百周年、列聖は 2025 年に百周年となる）。

彼女の霊性は一般に「小さい道」として知られているが、それは幼子の霊性とも呼ばれ、普通の常識的な聖性理解と正反対である。このことは、キリスト教の本質を理解する上でも、決して見過ごしてはならない点であろう。

たとえば、修練女のジュヌビエーヴ姉妹（実姉のセリーヌ）が「ああ、私がこれからかち得なければならぬ、いろいろのことを思います」と嘆くと、テレジアは言下に「むしろ失わなければならぬ、とおっしゃい」と言っている。

ジュヌビエーヴ姉妹は世間一般の常識的な考えを代表している。一人前の修道女となっていくには、修道院のいろいろな規則や種々の慣習、歌隊所でのしきたり、聖務やグレゴリオ聖歌などさまざまな聖歌、修道院の生計を成り立たせている数々の仕事、そして何よりも修道会の会則や会憲や隠棲修道院に対する聖座の文書など、たくさんのことを学び、身に着けて行かなくてはならないと。実際、その通りなのだが、それらをすべて完璧に習得、体得したとしても、それで一人前の修道者となるのではないということである。

この世では、何もできない幼子の状態から、一日も早く、自分で何でもできる大人になることが求められる。そのために家庭でのしつけや教育がなされる。さらに幼稚園や小学校、中学校の教育を通して、一人前の大人となるために、さまざまなことを学び、身に着けていかなくてはならない。高校大学では、さらに専門的な知識や技術を習得していく。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (177)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

フランシスコの情景 (2)

さらに少し道を行った時、聖フランシスコは大きな声で叫びました。

「おお、レオン修士よ、小さな兄弟がすべての不信仰者をキリストの信仰へと回心させるほど上手に説教できたとしても、完全な喜びはそこにはないと書きなさい」。

さらに二レグア（訳注：約 11 キロ）ほどこのように話し続けていると、レオン修士が非常に感心しながら彼に言いました。

「神父さま、神の名によってお願いします。どうか完全な喜びとはどんなものか私におっしゃってください」。

「ちょっと考えてごらん」と、聖フランシスコは彼に答えました。「私たちが今サンタ・マリア・デ・ロス・アンヘレスに着くとする。雨でずぶぬれになり、寒さに凍りつき、泥まみれになり、飢えで気を失いそうになりながら、修道院の門を叩く。すると、門番が不承不承現れ、尋ねるのだ。

『あんたたちは何者だ?』

すると私たちが、

『私たち二人は、あなた方と同じ兄弟です。』と言うと、彼は答える。

『嘘を言うな。お前たち二人は、世間をあざむき、貧しい人々の献金を奪い取っているならず者だ。ここからとっと消え失せろ。』

こうして門は閉ざされ、雪と雨の降る外にほうり出され、夜まで寒さと飢えで苦しむのだ。

このような冷酷さや無礼や拒絶などすべてを、私たちが怒らず、つぶやかず、あの門番は私たちが不適格であると実によく知っていて、神は彼をして私たちに対し、あのようには話させたのだと謙遜に慈悲深く考えて、忍耐強く忍ぶならば、おお、レオン修士よ、そこにこそ完全な喜びがあるのだと書きなさい」。

(P. 九里訳)

四旬節 第2主日 (A)

(マタイ 17 : 1-9)

私たちが誰かを信頼するという時には、その人が信頼に値する人であることを何らかの形で予め体験している必要があります。

信仰と訳されているギリシャ語はピステイス (pi, stij) ですが、ピステイスの意味は辞書では「信じること」や「信頼」の方が先に来ます。信仰という宗教的な用語は捉えがたいので、「信頼すること」と訳しなおした方が理解しやすいでしょう。ですので信仰とは「神を信頼して生きること」になります。

神を信頼して生きるためには、神が信頼に足る方であることを何らかの形で体験している必要があります。私たちが誰かを、あるいは何かを信頼することが出来るのは、その人が自分にとって良い方だからです。自分に危害を加える人や、命が生きられないように導く人を信頼することはできません。

イエス・キリストに大勢の群衆が押し寄せてきたのは、彼らが神を信じていたからではありません。彼らにとってイエス・キリストという方が救いの希望だと映ったからです。もし神を信じていることがイエス・キリストを信じることに繋がるのであれば、ファリサイ派や律法学者達もイエス・キリストを信じたことでしょう。しかし、彼らの目にはイエス・キリストは神を冒瀆する者と映ったのでした。

神を信じていたことがイエス・キリストを信じることに至らせたのではなく、イエス・キリストの癒し、ゆるしに出会った人が、イエス・キリストを通して神に出会い、神を信頼する信仰へと導かれたのでした。

主の変容の出来事は、その場にいた弟子たちに、十字架の死を乗り越えさせて、イエス・キリストを通して神を信じるための大きな契機となる出来事でした。

(志村武 神父)

四旬節 第3主日 (A)

(ヨハネ4 : 5 - 42)

「わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る」

四旬節は、特別な祈り、節制、ほどこしを実行する恵みのときです。四旬節の主日ミサの朗読では、四旬節特有の規律ある姿勢を続けるようにと私たちを促します。四旬節とは、受難の主の後を慕いながら祈りとつぐない絶え間ない回心を通して神との個人的な関係性を深めることに招かれている期間なのです。

今日の福音は、イエスとサマリアの女の出会いと回心の場面が展開されます。灼熱の太陽の下で旅をしてきて疲れたイエスは、ヤコブの井戸で「水を飲ませてほしい」と女に頼みました。この会話の中で、女とイエスは共通の認識を持っていないことが分かります。井戸の水の話をしているのだと女が思う中、イエスは生きた水について話しました。二人の会話は、物質的なものと霊的なものの領域を行き来します。しかし女は、やがてイエスとの会話の中で自分の人生の実情をはっきりと理解していきます。そして長い会話の最後に、イエスは女に対し、ご自分がメシアだと明らかにします。イエスは、女を信仰の旅路と回心へと一步一步導き、その結果、女は証し人となりました。女が自分の体験に基づき力強く証言するのを耳にして、他のサマリア人たちはイエスの話を聴くために集まり、彼らの信仰も強められて、イエスが世の救い主であると宣言しました。

イエスは「わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る」と言いました。そうです！イエスは救いの生きた水を与えてくれます。イエスはいつも私たち一人ひとりの人生を訪れてくれます。特に四旬節中、そんなイエスを迎えるためにここを開き続けておきましょう。イエスは私たちを解放し、刷新し、私たちが必要な「生きた水」を注いでくれます。私たちは、自分の救い主であるイエスを証しし、イエスの愛を他者と分かち合わなければなりません。

(Sr. Paulina)

四旬節 第4主日

(ヨハネ9：1-41)

四旬節の道のりも半ばとなり、第4主日を迎えました。今日の祭服等の色は、習慣のあるところでは、「喜び」を表すばら色の祭服を用いることができますが、実際に教会で目にする機会は、今はなかなかないでしょうか。

さて今日の福音は、長い福音になります。登場人物は生まれつきの目の見えない人。当時「病気」は、罪を犯した結果と捉えられていたこともあって、目の見えない人は、罪人と考えられており、ファリサイ派の人々は、生まれつき目の見えない人に向かって、「お前は全く罪の中に生まれたのに…」とっています。

弟子たちは、イエスに尋ねます。生まれつき目の見えない人は、誰が罪を犯したからなのかと。その問いに対してイエスは言われます。本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない、神の業がこの人に現れるためであると。

そしてイエスは言われただけでなく、安息日にその人を癒され、神の業が行われます。

イエスを認めたくない人々は、安息日を守らないから、神のもとから来た者ではないという人もいれば、どうして罪のある人間が、こんなしるしを行うことができるだろうかという人もいて、目の前の事実、神の業を認めることはできませんでした。

これに対して、生まれつき盲人だった人は、自分の身に起こった出来事から考えて、あの方が神のもとから来られたのでなければ、何もおできにならなかったはずだという理解に至り、また人の子を信じたいと願い、人の子を信じる者、イエスを信じる者へと変えられていきました。

これから四旬節の残りの道のりを、主のご復活に向かってともに歩む私たちがすが、私たちが、私たちのところで行われる神の業を認めることができますように。癒されたことを知って、イエスを見て信じる者となった生まれつき目が見えなかった人のように、イエスを見て信じる者となりますように。

(Fr. 古川利雅)

四旬節 第5主日 (A)

(ヨハネ 11 : 1 - 45)

本日の福音は、ラザロが死者から奇跡的に復活したことについてです。これは救い主であるイエスの最も偉大なしるしです。イエスご自身の人間としての生命を犠牲にした死に対する勝利の象徴的な描写です。これはまた、イエスの復活を期待するしるしでもあります。イエスは三日目に復活し、肉体は腐敗しませんでした。この奇跡的な復活は、絶望的な状況にあってもマリアとマルタのように決してあきらめないようにとの私たちの挑戦です。神が人を蘇らせるのに遅すぎるということはありません。しかし、私たちはまず神と協力しなければなりません。

この福音を読むと、私たちの生活の中や世界の中で神の復活の力を体験するには、従順にそして神のみ旨を行うことで神と協力する必要があると知るようになります。奇跡はイエスの三つの命令で起こり、彼らは従います。まず、イエスは「石を取り除きなさい。」と言い、彼らは石を取り除きます。第二に、イエスは死んだ人に「ラザロ、出てきなさい。」と言い、死者は出てきます。第三の命令は、再び人々に向けられ、「ほどいてやり、行かせなさい。」と言われます。このようにして、民衆はラザロの包帯をほどき、自由にしました。ここには大変重要なメッセージがあります。神の力は常に人間の協力によって働くようにみえること、神は人間の協力と従順によって奇跡を行なうということです。

多くのキリスト者が罪という死の生贄になっていることをこの福音は知らせています。多くの人が絶望の墓に入り、罪の習慣の束縛の中にいます。イエスは、奇跡で常に私たちを罪の束縛や絶望から解き放ち、自由にし、新しい生命を与えてくださいます。私たちは奇跡に対してイエスに協力する準備ができていますでしょうか？ 神と私たちの間にある石を取り除く準備ができていますでしょうか？ 罪と死の場所から出る準備ができていますでしょうか？ お互いに許し合い神の子供の自由を体験する準備があるでしょうか？ 私たちの生命の中にある奇跡を神がおこなえるように、神と協力しましょう。

(Sr. Paulina)

いのちの言葉 3月

光の子として歩みなさい。
光から、あらゆる善意と正義と真実とが生じるのです。1
(エフェソの信徒への手紙 5、8-9)

かつてパウロは、巨大な都市エフェソ（現在のトルコ）で宣教し、洗礼を人々に授けていたことがありました。このエフェソの共同体に宛てて彼は手紙を書いています。

おそらくその時、パウロはローマの獄中にいたと思われます。紀元62年頃のことです。苦しみの中にあつたパウロがあえて信徒たちに手紙を書いたのは、エフェソの共同体内部の問題を解決するためというよりも、むしろ、生まれつつある教会の上にある神のご計画がどれほど素晴らしいものであるかを彼らに告げ知らせるためでした。

パウロは、エフェソの信徒たちに、信仰と洗礼の賜物によって彼らが「闇」から「光」へと導かれたことを思い起こさせ、頂いた賜物にふさわしい生き方をするようにと彼らを力づけています。パウロにとってその生き方とは、彼らが神を深く知りその愛のみ旨の内に成長していくために、絶えず歩み続けることでした。それはいつもやり直しながら一日一日を生きていくことでした。

パウロは、エフェソの信徒たちに「愛する子供」として「御父に倣う者」2となるように呼ばれた彼らが、日々の生活を通して「聖なる者」「慈しみ深い者」となるようにと勧めたかったのです。

光の子として歩みなさい。光から、あらゆる善意と正義と真実とが生じるのです。

21世紀に生きる私たちキリスト者も「光」となるように呼ばれています。しかしながら、しばしば自分の限界を感じたり、外的状況に押しつぶされたりする自分は光のような存在にはとてもなれないと思うことがよくあります。

ではどのようにして私たちは、希望の内に歩んでいけるのでしょうか？

ここでもパウロは私たちを励ましてくれます。道を見失ったこの世にあって、私たちを照らし、私たちを「星のように輝く」3存在にしてくれるのは唯一、「生きた神のみ言葉」なのだ。

キアラ・ルービックもこう書いています。「私たちは皆、もう一人のキリストとして、その才能や能力を科学、芸術、政治等、色々な分野に生かしながら社会生活に貢献することができます。… 福音のみ言葉をしっかり受け止めるなら、私たちは一層キリストの考え、思い、その教えを自分のものにできるからです。み言葉は、私たちの行動すべてを照らし、私たちを正しく導き、軌道修正してくれます。… 私たちの中の「古い人間」は、自分の世界に閉じこもらせ自分に興味のあることだけに心を向けさせたりするので時々私たちは、傍らを通り過ぎる人のことや、公共の善に対しても無関心になったり、周りの人の必要にも気付かなかつたりします。ではそうならないために、私たちの心にもう一度、愛の火を灯しましょう。愛の火は、全てを新しい目で見える目を私たちに与えてくれるからです。」

光の子として歩みなさい。光から、あらゆる善意と正義と真実とが生じるのです。

み言葉を生きる個人や共同体によってもたらされる福音の光は、コロナ感染の苦しみ、さらにそれが原因で貧困が悪化している状況下であってさえも、社会に希望をもたらし人々の連帯と絆を強めます。

フィリピンのジュンは、パンデミックが猛威をふるう中、火災で多くの家族が焼け出されすべてを失った時のことを話してくれました。「私と妻のフロールは、たとえ貧しくても何とかして彼らに手を差し伸べたいと強く思いました。そこで私も自分が属しているモーターサイクルの仲間たちに声をかけてみました。私たちと同様に彼らも苦しい状況にあるにもかかわらずすぐ賛同してくれました。こうして私たちは、イワシの缶詰、スパゲッティ、米、家にある食料品などを集めて被災した人々のもとに届けることが出来ました。

私も妻も、将来のことを考えると時々不安に襲われることがあります。そんな時に思い出すのは、『自分の命を救いたいと思う者はそれを失うが、わたしのため、また福音のために命を失う者は、それを救うのである』⁵というみ言葉です。私たちは決して豊かではありませんが、相手の中におられるイエスを愛するために、自分たちにも何か分かち合えるものが必ずあると信じています。このみ言葉は、いつも神の愛に信頼しながら誠実に与え続けるための原動力となっています。」

大切なのは心の奥にある光に照らされること。そこからもたらされる善・正義・真理の実りを主はお喜びになられます。私たちが語る他のどんな言葉にもましてこれらの実りは、福音の健全さ・美しさを証しするものです。

最後に、この聖なる旅を共にするすべての人々によって私たちは支えられていることを思い出しましょう。他の人からの善、互いに許し合う体験、物質的・精神的な富の分かち合い、等々。これら全ての貴重な助けがあってこそ私たちは希望の証人となれるのですから。

イエスは、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」⁶と約束なさいました。 私たちキリスト者の生活の源泉そのものであるご復活のイエスは、祈りと相互愛のうちに常に私たちと共にいて下さり、私たちの心を温め、私たちの心の思いを光で照らしてくださいます。

光の子として歩みなさい。光から、あらゆる善意と正義と真実とが生じるのです。

レティツィア・マグリと「いのちの言葉」編纂チーム

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

1 日本聖書協会『聖書 新共同訳』

2 エフェソ 5. 1 参照

3 フィリピ 2. 15 参照

4 キアラ・ルービック 2005年9月の「いのちの言葉」より

5 マルコ 8. 35 参照

6 マタイ 28. 20 参照

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2023年2月8日

リジューの聖テレジア関連の記念祭 2023-2025



ANNIVERSAIRES THÉRÉSIENS

2023-2025



現在の、総長任期6年（2021年～2027年）の間期に、私たちは幼きイエスの聖テレーズ生誕150周年（2023年）そして列聖100周年（2025年）を記念してお祝いしています。2021年の跣足カルメル修道会の総会において、聖テレーズの著作を全ての跣足カルメル会ファミリーで輪読する提案が採択されました。

そして、リジューの聖テレーズの著作の読書と黙想のためのプログラムが作成されました。毎年8つの選択された文献が短い説明と質問とともに提供されます。また毎月の初めに、跣足カルメル修道会総長本部のウェブサイトでワークショップが開催され、皆さんも参加できます。現在進行中のワークショップは、次のウェブサイトで見ることができます。

1) 提示された課題のワークシート:

幼きイエスの聖テレーズの著作の読書について

<https://www.carmelitaniscalzi.com/en/documents/reading-and-reflection/presentation-reading-the-writings-of-therese-of-the-child-jesus/>

2) ワークシート1:

主の慈しみの歌 (『幼きイエスの聖テレーズの自叙伝A』)について

<https://www.carmelitaniscalzi.com/en/documents/reading-and-reflection/study-guide-1-reading-of-the-writings-of-therese-of-the-child-jesus/>

同様に毎月10日と15日には、皆さんに読書プログラムの内容にあったビデオを私たちのYouTube チャンネル (OCD Curia) で配信します。ビデオは一連の各月の練習問題用紙に対応しており、それは私たち修道会の管轄地区の一つのところで制作されます。このプログラムを通して、リジューの聖テレーズの言葉がなぜ全世界各地で聴かれ、読まれているか理解することができます。第1回目のビデオは既に完成してご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/watch?v=QzaV<>MsYdXo>

(訳・注: 小宮山延子)

糸巻き棒からペンへ(84)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

ですからこのこと（訳注：相手の名前や素性を知らないこと）が大きな無礼であるならば、私たちが何者であるかを知ろうとせず、身体のことなどにこだわっている場合、私たちの中にある無礼は、比較にならないほど、大きいのです。おおよそ、私たちは霊魂を持っていると知っています。というのもそう聞いたからであり、また信仰もそう言っているからです。実に何という賜物がこの霊魂に与えられているかとか、どなたがその中におられるのか、またその偉大な価値などについて、私たちはめったに考えることはないのです。

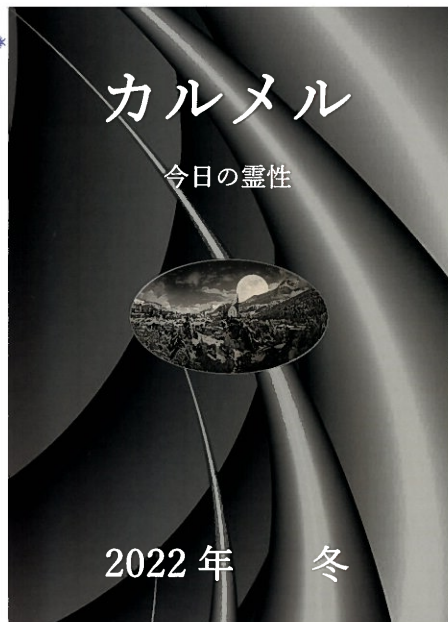
したがって、神の声を聞こうとするとき、私たちがしなければならない第一のことは、私たちの霊魂の偉大さや尊厳に気づくこと、すなわち主の助けによって霊魂の諸能力を豊かに発展させ、私たちが小人のままでいたためには、その測り知れない諸能力に気づくことなのです。

祈りにおける散漫

私たちの祈りが本物であるか否かは、何を考え感じたかにではなく、どれだけ愛しているかに現われることをあなたに思い起こさせたいと思います。それゆえ、私たちはもっと愛することへと自分をかき立てるよう絶えず努めなくてはなりません。おそらく私たちは愛するとは何なのか知らないのでしょうか。そしてそれは私をそれほど驚かしません。というのも、愛は最大の喜びにあるのではなく、すべてにおいて神を喜ばせようと望んだり、できるかぎり神を悲しませまいと努めたり、御子の名誉や栄光、またカトリック教会の発展を常に優先させようと神に願ったりする一大決心の中にあるからです。これらが、愛のしるしです。あなたがたは、重要なことは他のことを考えることにあるとか、祈りの時に少しでも考えが入ればすべては失われるなどと考えないように。

(P.九里訳)

カルメル誌 新刊案内



2022年 冬号 No.387

道の靈性(続)第四回

旅の挫折を越えて

田畑邦治

日々の出来事の中で 神の靈は導く(4)

—テレーズ生誕(1873~1897)—五〇周年を迎えて

伊従信子

諸聖人の祭日—聖徒の交わりを信じる

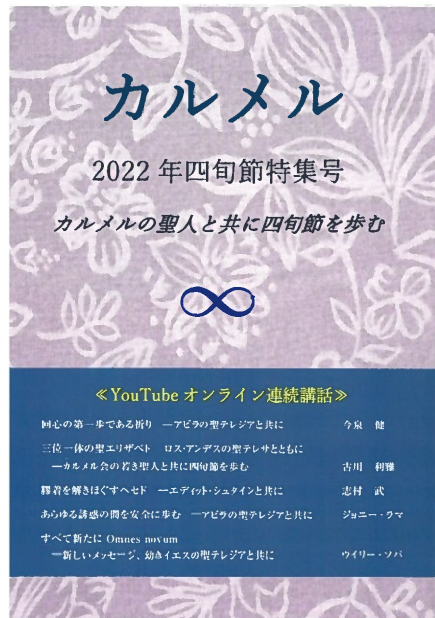
ポーリン・フェルナンデス

キリストの説かれた 幸いなる道(8)

九里 彰

靈的研究会講義録(18)—聖書・祈り・愛について

奥村一郎



2022年 特集号

カルメルの聖人と共に四旬節を歩む

回心の第一歩である祈り

—アビラの聖テレジアとともに

今泉 健

三位一体の聖エリザベト

ロス・アンデスの聖テレサとともに

—カルメル会の若き聖人と共に四旬節を歩む

古川利雅

膠着をときほぐすへせト

—エディット・シュタインと共に

志村 武

あらゆる誘惑の間を安全に歩む

—アビラの聖テレジアと共に

ジョニー・ラマ

すべて新たに Omnes novum

—新しいメッセージ、幼きイエスの聖テレジアと共に

ウイリー・ソバ

ご案内

1冊 580円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、760円【580円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特集号 計 3,600円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

新刊紹介

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話Ⅱ ロザリオの祈り



Chaque Etoile
小野崎良子 編

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシエル神父の講話Ⅱ

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円（税込）

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です（教会憲章 53 番）。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神秘をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださりました。

教友社定価 (1,500 円＋税)

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

小野崎 良子(おのぎき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック 宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

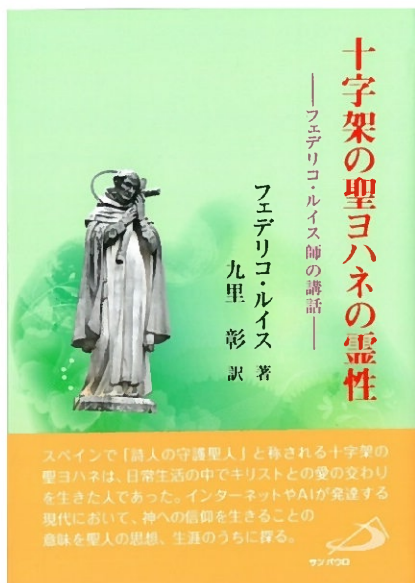
2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

書籍紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

————— 目次 —————

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

監訳 九里 彰
 岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 皆 畏（1）
- 第2章 皆 畏（2）
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギー
- 第10章 英知と〈空〉

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 〈愛のうちにある〉
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を習得し、神学博士の学位を得る。東洋の宗教思想、特に神祕主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



**第2版
好評発売中!**

福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】 **287**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

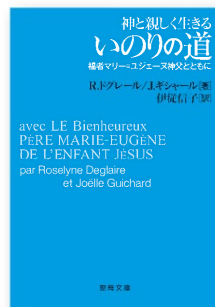
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 209頁



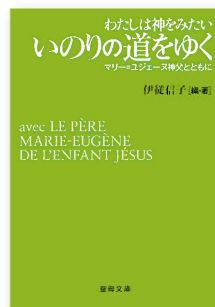
わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

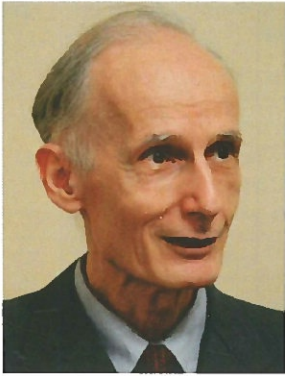
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり方の薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イェズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のもものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

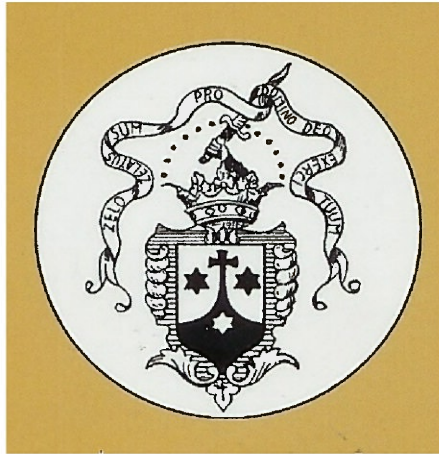
* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **
(2023年3月～)

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【聖週間】

聖木曜日から復活祭まで通して参加できます。またどの曜日からでも参加可能です。

2023年4月6日(木) 夕食～9日(日) 朝食 《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】

2023年12月24日(日)～25日(月) 朝食 《講話なし、夕食なし》

- ・聖書深読黙想会(土曜日17時～日曜日16時) カルメル会士

2023年

4月29日～30日

11月18日～19日

7月8日～9日

2024年

9月23日～24日

2月24日～25日

- ・一日黙想会(水曜日10時～16時・昼食付) カルメル会士

《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》

2023年 3月15日 4月19日 5月17日 6月21日 7月19日

9月20日 10月11日 11月15日 12月20日

2024年 1月17日 2月21日 3月20日

- ・聖書から学ぶキリスト教霊性入門(木曜日10時～16時・昼食付) 志村武神父

2023年 3月2日 5月11日 7月6日 9月21日 11月9日

2024年 1月11日 3月7日

- ・一泊黙想会(土曜日16時～日曜日16時) カルメル会士

2023年

3月18日～19日

11月11日～12日

5月20日～21日

2024年

7月1日～2日

1月13日～14日

9月30日～10月1日

3月9日～10日

- ・奉獻生活者のための黙想会(初日17時～最終日朝食) カルメル会士

2023年8月16日(水)～25日(金)

8月1日(火)～10日(木)

12月27日(水)～1月5日(金)

- ・ 青年黙想会 (男女) 35歳まで (初日16時～最終日16時) カルメル会士
 2023年 5月13日(土)～14日(日)
 2024年 3月23日(土)～24日(日)
- ・ 召命黙想会 (男女) 40歳まで (初日16時～最終日16時) カルメル会士
 2023年 11月25日(土)～26日(日)
- ・ カルメル会召命黙想会(男子)40歳まで (初日16時～最終日16時)
 カルメル会士
 2023年 2月4日(土)～5日(日)
 4月22日(土)～23日(日)
 7月22日(土)～23日(日)
 10月28日(土)～29日(日)
 2024年 1月27日(土)～28日(日)
- ・ 特別黙想会 (初日20時夕食なし～最終16時) Sr. 伊従信子(ハトルダム・ド・ウイ)
 2023年 6月16日(金)～18日(日)
 11月3日(金)～5日(日)



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

2023年 カルメル会 四旬節講話シリーズ

(テーマ)「現代、宗教を生きる事の意味：
カルメル会からの提言—— カルトと宗教……——」

会場:カトリック上野毛教会聖堂(東急大井町線上野毛駅下車徒歩7分)

世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル会修道院(Tel.03-3704-2171)

日時:下記の各日曜日 午後2時半開始 入場無料/予約不要です(講話後、主日のミサ)

≪YouTubeでも無料配信いたします≫※講話が行われた二日後からご視聴いただけます。「カルメル会 四旬節講話シリーズ」で検索

<https://www.youtube.com/channel/UCUG7JhdLCoCF-tZ6uei5YpA>

第1回 2月26日 「自分の心の中——心の深い深いいちばんの奥底に……」
……アビラの聖テレジアの宗教性……
中川博道(カルメル会士)

第2回 3月5日 「人間学としての精神医学」
濱田秀伯(六番町メンタルクリニック・精神療法センター長)

第3回 3月12日 「人間となる道 ——十字架の聖ヨハネの教えと生涯——」
九里彰(カルメル会士)

第4回 3月19日 「神との出会いの喜び
——教皇フランシスコの『創造の福音』に照らされて」
松田浩一(カルメル会士)

第5回 3月26日 「幼きイエスの聖テレジアの宗教性」
大瀬高司(カルメル会士)

お問い合わせ:「四旬節講話係」
reisei@carmel-monastery.jp

一日黙想会

テーマ：『カルメル会聖人に学ぶ黙想会』

*毎月第三水曜日（8月はお休み）

*10時～16時 3,500円（昼食付）

<2023年度開催予定日（2023年3月～2024年3月）>

2023年 3月15日 4月19日 5月17日
6月21日 7月19日 9月20日 10月11日
11月15日 12月20日

2024年 1月17日 2月21日 3月20日

コロナの状況により中止となることもございます。
当面は少人数(定員10名)での開催とさせていただきます。

*当修道院司祭が交代で指導いたします

お問合せ・お申込み: 〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

Tel: 03-5706-7355 Fax: 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp



宇治カルメル会 黙想会案内 (~2023年3月)

新年度の黙想会スケジュールは決まり次第、HP や紙面にて
お知らせ致します。いましばらくお待ち下さい。

【一般のための黙想】 中川博道神父
1泊2日 (土曜 午後5時~日曜午後4時)
5:30 サルヴェ・レジーナ(修道院)から開始

【聖書深読】 (午前10時~午後4時) 中川博道神父

【祈りの学校】 (木曜 午前10時~午後4時) 松田浩一神父

2023年
3/2

【奉献生活者の黙想】 (午後5時~午前9時) 一般可

2023年
追加 3/6 (月) ~ 3/14 (火) 中川博道神父

【祭日のミサに参加するために】

*＜クリスマス＞

12/24~25

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
(講話なし 食事つき)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしていますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

新企画！

松田浩一神父（カルメル会）による黙想会

「祈りの学校」

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



すべて木曜日 10:00～16:00

5/19—6/2—7/7—9/1—10/13—11/3—12/8

2023年 1/12—2/2 **終了** 3/2

持参するもの・・・筆記用具・ロザリオ

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）

Fax 0774-66-1191（聖テレジア修道院（黙想）専用）

E-mail : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山 2023年 — 祈りの集いのご案内

テーマ 聖性への招き

召し出してくださった聖なる方に倣って、あなたがた自身も
生活のすべての面で聖なるものとなりなさい（1ペトロ1，15）

毎月第2木曜日（10:00～15:00）
予約は前日の16:00まで

- 1月12日 励まし、寄り添ってくださる諸聖人（コデノッティ・クラウディオ神父）
2月 9日 福者高山右近と日本の殉教者（コデノッティ・クラウディオ神父）
3月 9日 十字架の聖パウロ（ソットコルノラ・フランコ神父）
4月13日 マグダラの聖マリア（Sr. マリア・デ・ジョルジ）
5月11日 聖シャルル・ド・フーコー（コデノッティ・クラウディオ神父）
6月 8日 三位一体の聖エリザベト（ソットコルノラ・フランコ神父）
7月10日 聖マクシミリアノ・マリア・コルベ（園田善昭神父）
8月 休み
9月14日 コルカタの聖テレサ（Sr. マリア・デ・ジョルジ）
10月12日 幼きイエスの聖テレーズ（コデノッティ・クラウディオ神父）
11月 9日 聖ガイド・マリア・コンフォルティ（コデノッティ・クラウディオ神父）
12月14日 聖フランシスコ・ザビエル（コデノッティ・クラウディオ神父）



・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします（要予約）

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

Tel:0968-85-3100

Fax:0968-85-3186

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

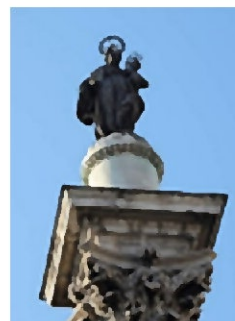
申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
サダナ I	3/30(木)17:30- 4/2(日)16:00	Fr植栗	カルメル修道会上野 毛修道院・黙想の家 (世田谷区上野毛) ★場所が変わりました	来間(くるま) 裕美子※ Tel:090-5325-2518 sadhana12378@ yahoo. co. jp
フォローアップ	4/16(日) 9:30-17:00	同上	シャルトル聖パウロ修 道女会九段修道院 (千代田区九段北)	同上
入門 A	4/23(日) 9:30-17:00	同上	援助修道会 リヒト宣教室 (市ヶ谷)	同上
那須リピータ ーの会	4/28(金)9:00- 4/30(日)14:00 (前泊可)	同上	ベタニア修道女会 ヨゼフ山の家 (栃木県那須郡那須町)	同上
ダイアリー	5/3(水・祝)17: 30-5/7(日)16: 00	同上	上石神井無原罪聖母 修道院 (練馬区)	同上
名古屋入門 A	5/14(日) 9:30-17:00	同上	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暁子 Tel:050-7108-7410 ngosdn@gmail. com
サダナ I	5/18(木)17:30- 5/21(日)16:00	同上	上石神井無原罪聖母 修道院 (練馬区)	来間(くるま) 裕美子※
入門 B	5/28(日) 9:30-17:00	同上	援助修道会 リヒト宣教室 (市ヶ谷)	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel & Fax : 042-325-7554

- フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナ I を終えていること。
- 入門Cへの参加…入門Aまたは入門Bを終えていること。



念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日

14：00～16：00(講話と念祷)

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

中止のお知らせ

2023年度予定

予定しておりました「念祷の集い」は、コロナウィルス感染のため、開催を中止しております。秋口からの再開を予定しておりましたが、いまだ感染の終息が見えない状況の中、今しばらく中止させていただきます。

再開する場合は、この紙面上にて再度お知らせいたします。

連絡先：篠原 三恵子

Tel:042-473-6287

e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。
また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。
その場合は、「献金」とご記入お願い致します。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

インターネットから読める様になりました

『靈性センターニュース』バックナンバーを
宇治カルメル会のホームページに掲載してます。

PC版のみ PDF形式

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」をクリック

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき . . . つぶやき . . .

最近、あるミッションスクール高校の、卒業を控えた生徒さんたちの二日間の黙想会、「卒業感謝の祈りの集い」に招かれました。コロナ禍パンデミックから始まり、ロシアのウクライナ侵攻一年を迎える不穏の中で、新しい人生の門出を祝う卒業生の皆さんの3年間と、これからの歩みを思いめぐらし続けています。

私自身この3年間、今年始まった大河ドラマのフレーズのように、「どうする、どうする」と問いながら生きてきたことに気づかされています。コロナパンデミック、ロシアのウクライナ侵略戦争、元首相の殺害から見えてきたカルト宗教の政治への介入等…。さらに大きな視点で眺めれば、「人新世」と呼ばれる時代が到来しています。人類の経済活動の影響があまりに大きいため、人間たちの活動の痕跡が地表を覆いつくした地質時代区分と言われます。

半世紀以上前に、教会が「今日、人類史の新しい時代が始まっており、深刻で急激な変革が次第に全世界に広まりつつある」と言っていた意味をあらためて実感する日々です。

考え続けることに少々疲れを感じながら、ふと気づかされます。「どうする、どうする」と言ってみたところで、誰も経験したことのない時代、立ち止まらざる負えません。

今回の卒業生の皆さんと「人類史の新しい時代の始まりに…立ち止まって、独りになって、聴いてみる…」というテーマで黙想をしました。今、あらためて自分自身が「立ち止まって、独りになって、聴いてみる」ことの必要に迫られています。

そんな中、イスラエル史の新しい時代を開いていった預言者サムエルのことばが立ち上がってきます。

「どうぞお話しください。僕は聞いています」(サムエル記上3.10)。

(Fr.中川博道 o.c.d.)

